

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

夢・希望・未来 笑顔いっぱい希望が丘
 ~いつも笑顔で元気にあいさつ、心やさしい希望の子~
 ○問題意識をもち、自分で判断し、解決する子を育てます。【知】
 ○自分のよさを発揮し、思いやりのある子を育てます。【徳】
 ○心と体を鍛え、命と体を大切にすることを育てます。【体】
 ○まちの人や自然とのかかわりを大切に、共に生きる子を育てます。【公】
 ○社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。【開】

教育課程全体で育成を目指す資質・能力

<つなぐ>
 ~自らの成長を自覚し、適切に行動できる子~
 ○ 自他理解力
 ○ コミュニケーション力
 ○ 問題発見・解決力

具体化した資質・能力

- 自他理解力
- コミュニケーション力
- 問題発見・解決力

中期取組目標

○学校教育目標を実現するため、児童一人ひとりのよさを大切にする、やさしさあふれる学校を目指します。
 ・児童と教材、児童と児童、児童の過去・現在・未来を「つなぐ」学級経営や教材開発を進めます。
 ・基礎基本をしっかりとおさえ、わかりやすく楽しい授業づくりを推進し、学力の向上を目指します。
 ・児童が自己有用感を高め、進んで自己表現できることを目指して、様々な「ひと・もの・こと」との「出会い」「ふれあい」を大切にします。
 ・近隣の幼稚園・保育園・小学校・中学校や、家庭・地域と連携し、子どもの豊かな成長を目指して信頼ある学校づくりに取り組みます。
 ・教職員の個性を生かしながら、必要な情報を共有し、協働意識をもって、よりよい学校を目指します。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学習指導	①単元や一単位時間で育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。本時のめあての確認と振り返りの時間を取り入れ、子どもが主体的に学習を進められるようにする。②学びの地図(デザイン)を描き、見通しをもった授業構想を立て、具体的な発問や板書の計画をする。③子どもが主体的に活動できるような、問題解決的な魅力ある授業づくりを研究し、授業力向上に努める。④横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、子どもの実態把握に努め、個に応じたきめ細やかな指導をする。⑤保護者や、まちの人とのつながりを生かした学習を展開する。
担当	第一指導部会

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力・学習意欲に関する児童の実態と考察

上記のチャートは令和2年4月に行った横浜市学状の結果である。どの学年も、経年変化を見ると2年生時より学力層Aが減り、学力層Dが増えている。R4年度の6年生は、5年の時に比べて学力層A~Cが増え、D層が著しく減少した。高学年になり、難易度が上がる学習内容だからこそ、指導法を研究し、主体的な学習になるよう教師の手だてが重要になってくる。生活意識調査の「自分たちで課題を立て、解決のために情報を集めたりしていますか」という項目においては、多くの学年で市平均より低い結果が出た。重点研究のテーマにもしている「問題解決的な学習」の構成を、教材研究とともに力を入れて行っていく必要があると考える。

(2) これまでの学校の取り組み状況

- ・重点研究のテーマを「問題発見・解決的な学習」とし、児童の力の育成をはかってきた。
- ・メンター研修、学年研などのOJTの中で、資質・能力の育成のための手だてを計画し、講じてきた。
- ・R4年度の横浜市学力・学習状況調査の結果を各学年で丁寧分析し、R4後期~R5前期の「くぐんタイム」で重点的に補充的な学習を行い、誰一人取り残さないようにするために取り組んできた。

今年度の目標

問題発見・解決的な学習を通して互いのよさを認め合ったり、習得した学習内容を生かして主体的に学ぼうとしたりする力を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- ①各教科ごとに、指導の重点を置くポイントについてさらなる分析・改善に努め、それを基に朝学習等で、計画的に既習内容の強化を図っていく。
- ②生活場面から問題を見出し、問題解決に必要な感をもたせ、自ら「解決したい」「考えたい」という思いを高めていく。
- ③学習したことを次の学習や生活に生かせるように、単元間のつながり(横のつながり)、その学習以前や前学年での学習とのつながり(縦のつながり)を意識して、授業を展開する。
- ④身につけた知識・技能を活用することで、「学習してよかった」という思いをもたせ、一人ひとりが学ぶことのよさやおもしろさが実感できるようにする。
- ⑤「授業がわかる」「授業に主体的に取り組んでいる」と答えられる子を増やしていくように、指導に生かす評価と子どもへの還元を充実させる。また、子どもたちが主体的に行ったよい取組や活動に対して、自分自身で振り返る時間を充実させるとともに、教師から価値を認める声かけをしたり、子どもたちが互いのよさを認め合えるような機会を意図的に設けたりする。
- ⑥地域の人とのつながりを生かした学習を展開する。
- ⑦横浜市学力・学習状況調査の結果分析をふまえ、各学年指導のポイントを明確にした週1回の「くぐんタイム」で、前年度の引継ぎとして計画的に学習内容の強化を図る。

下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育 人権教育	①豊かな心の育成を目指して、道徳科を要として学校の教育活動全体を通して行う道徳教育を推進する。②道徳科年間指導計画に沿った、全学年の道徳科授業公開を年一回以上実施する。③自分の思いを書いたり、話したりする活動の中で自分自身を見つめたり、なりたい自分をイメージしたりすることができるようにする。④ペア活動を充実させ、異年齢児童のつながりを築く。⑤人権週間や横浜子ども会議などを通して、誰もが安心して過ごせる学校や、人権について考える機会をもつ。⑥家庭と共に、いつでも、どこでも、だれにでも気持ちのよいあいさつをする子どもを育てる。
担当	第二指導部会

豊かな心に関わる本校の状況

(1) 豊かな心に関わる児童生徒の実態

前年度との比較を考えると、生活意識が全体的に上がってきている。細かく質問で見ると、「うれしそうな人や楽しそうな人が近くにいると、自分もうれしくなったり楽しくなったりすることがありますか。」という質問に対して、「どちらかというと思わない」「思わない」の割合少くはない。他人の幸せな様子を見て、共に喜んだり祝ったりする豊かな心を今まで以上に育てていく。

(2) これまでの学校の取組状況

- ・道徳科の授業
- ・人権習慣の取組

今年度の目標

○児童一人ひとりが、自分の「よさ」といふことを自覚し、自己肯定感を高められるよう、豊かな心の育成を目指す。
 ○児童一人ひとりが「あいさつ」の大切さやよさを考え、気持ちのよいあいさつを実践できるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 毎日の生活のなかで、意図的に賞賛の声かけをしたり子どもの活躍の場を設定したりして、自己受容や自己理解を促進できるようにする。
- 子ども一人ひとりの自己肯定感を高められるように、「よいところ見つけ」「理想の自分になるために」などのプログラムや学習を実施する。
- 運動会でのペア競技や、定期的なペア活動の充実を図り、ロング昼休みに定期的に活動を位置づけたり各ブロックで時間を設定したりする。互いが自分の成長を実感したり、コミュニケーションのよさに気付いたりするなかで、「自分」を見つめ、自分を肯定できる心育てる。
- 夢の希望っ子委員会から、「あいさつ運動」の企画を発信し実施する。さらに、学校での取り組みを学校だよりを通して家庭に発信し、学校での取組を理解していただき、ご家庭での指導も協力していただく。あいさつすることで、お互いが気持ちよく楽しく過ごすことができるなど、あいさつすることのよさを子どもたち自身が実感できるようにする。

下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育・食育 安全教育	①家庭と連携し、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培うとともに、食育や歯科保健教育を実施する。②体力テストから児童の実態を把握し、授業に役立てる。③スポーツフェスタで様々な競技・演技に取り組み。④友だちと一緒に楽しく運動するために、子どもたちが企画・運営を行う「体力アップ大作戦」や「大縄集会」を実施する。⑤「給食月間」など栄養職員と連携して食育活動を行う。⑥定期的に様々な状況を想定して避難訓練や不審者対応訓練を行い、教職員の動きも確認・訓練をする。⑦交通安全教室、防火教室、携帯電話教室等を行い、児童・保護者の安全意識を高める。
担当	第三指導部会

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる児童の実態

放課後に習い事等で運動に触れる機会が多い児童と運動をする機会の少ない児童で二極化している。
 ・休み時間に外遊びをしている児童が多く見られるが、コロナ感染症の影響で3年間は、外遊びが制限されていたため、今年度の2、3、4年生は、外遊びの経験も少ない。
 ・生活実態調査では、現6年生は、30%ほどの児童が運動をときたましている、または、していないと答えている。
 ・現5年生は、60%近くの児童が運動をする時間が、30分未満~2時間未満と答えている。

(2) これまでの学校の取り組み状況

- 食育・・・給食委員会の取り組みを通して、栄養バランスを考えた食事のとり方などを全校に伝えた。また、家庭科では、食育との関連を図り望ましい栄養や食事のとり方を理解できるようにした。
- 健康教育・・・体育科では、体力向上を意識し、自ら進んで運動に取り組もうとする意欲が身につくような授業展開を図った。スポーツフェスタでは、様々な競技・演技に取り組んだ。体育委員会主催の「大縄集会」を実施した。
- 安全教育・・・職員が毎日下校指導を行い、児童・職員の安全意識を高めた。定期的に様々な状況を想定して避難訓練や不審者対応訓練を行った。教職員の動きも確認した。交通安全教室等を行い、児童・保護者の安全意識を高めた。

今年度の目標

○運動の楽しさを実感し、友だちと関わりながら進んで体を動かし、体力を高める活動を実践する。
 ○運動を楽しむための基礎基本となる動きを身に付けるため、授業を工夫し、充実する。
 ○身に付けた正しい知識をもとに自分の生活を見つめ直し、より健康的に生活をおくろうとする態度を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 体を動かす時間を確保するためにロング昼休みでのペア活動を充実させる。また、集会委員会による朝の集会、体を動かす遊びの紹介などを全校に発信したり、スポーツ委員会による大縄集会なども実行したりすることで、体を動かす楽しさが実感できるようにする。
- 4、5月の健康診断や6月に予定している体力テストの結果を児童一人ひとりが振り返る時間を確保し、自分の体や体力を知り、自ら体力づくりができるようにする。
- 授業では、十分な運動量を確保し、児童が自分の運動課題の解決をめざす活動ができるように、学習カードやグループ学習の活用やICTを利用するなど指導支援する。
- 食育では、給食委員会の取り組みなどで、バランスの良い食事などを紹介しながら、食について学ぶ機会を設ける。
- 災害時、自他の生命を守るためにいろいろな場や避難経路を想定して、避難訓練ができるようにする。
- 学校と家庭が協力し合い、児童への情報モラル教育を行う。(保護者参観型で、土曜参観でサイバー教室を開催)

下半期

5月20日(金) 締め切り